

研究論文

縄文時代晩期、合口土器棺の成立過程

— 棺形態分類とその機能 —

立岡和人

要 旨

近畿・東海・北陸地方の一部地域に限定分布する、縄文時代晩期の合口土器棺を集成検討し、その出現状況と要因を考察した。特殊な棺形態である合口棺を外蓋・内蓋・接口に細分類し、良好事例が多い滋賀県の合口棺の土器型式編年から、棺内容積を徐々に増大させる時期的変遷をみだし、可能性の一つとして棺埋納年齢が胎児・新生児から乳児にまで拡大したと想定した。更に合口土器棺の出現は、近畿地方において土器棺墓が（再）出現した晩期前・中葉、滋賀里Ⅲ a 式・篠原式古～中段階当初からではなく、次段階の土器棺墓発展期といえる篠原式新段階であり、東海・北陸地方における出現と併行することを確認した。

キーワード：縄文晩期・篠原式新段階、近畿・東海・北陸地方、（外蓋・内蓋・接口）合口土器棺

はじめに

本稿は、近畿・東海・北陸地方の一部地域に限定分布する、縄文時代晩期に出現した合口土器棺を集成検討し、その出現状況と要因を考察するものである。まず土器棺「墓」分析の利点として、以下の3点を挙げておきたい（立岡 2000）。

1. 汎日本的に分布し、検出事例も多い。
2. 土器を主体とした棺構造のため保存状態もよく遺構検出が容易である。
3. 土器を主体としているため土器型式編年を用いての時期的区分が可能である。

以上の3点から導き出されることは、棺・容器としての、遺物的側面の重視である。つまり遺物中心の型式学を遺構にも応用した試みである。なお、本稿で扱う土器棺墓が果たして「棺」・「墓」であるのかという疑問もあろうが、本稿では棺墓の前提で進める。また葬制という観点からは紙幅不足もあり、そういった意味を含め遺構（遺物？）形態に限定した「土器棺」という論点に限定したい。

1. 学史的検討と分析方法

(1) 学史的検討

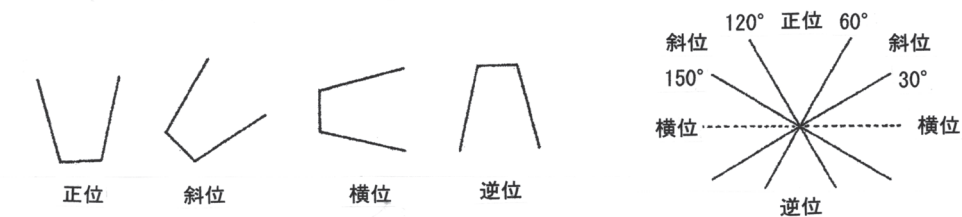
近畿地方の縄文時代晩期墓制に関する本格的な考察は、滋賀県、北仰西海道遺跡の調査成果（葛原 1987）を受けた、中村健二氏による論考（中村 1991）から始まるといえよう。同論考では、近畿地方における晩期墓制をまとめ、晩期中葉（本稿でいう滋賀里式 3 期～

篠原式期）に土器棺墓が群集化する理由として、再葬と土器棺墓が結びつき、頭蓋骨と一部骨を再葬する土器棺再葬墓がこの時期に広く普及したためとした。また既に、縄文時代晩期合口棺の分布も検討され、滋賀県北部・岐阜県西部・福井県南部の3県境付近に分布の中心があることを指摘していた（中村 1993a）。更に近畿地方が土器棺墓単棺を主体とした地域 A（滋賀県・京都府南部の一部以西）と、合口棺が存在する地域 B（滋賀県・京都府南部の一部）に二分されること、また地域 B に合口ほか多様な土器棺埋設形態が見られるのは、大規模な墓地において複数の出自を表す必要性から、従来に無い棺形態が出現したとみなした（中村 1993b）。合口棺の成立要因を説明した唯一の論考である。

東海地方では、前田清彦氏による論考がまず挙げられる（前田 1993・2000）。前田氏は東海地方の晩期墓制の基礎的考察を行い、未検出の土坑墓を想定し重視するとともに、土器棺内容物を検討し再葬壺棺以前の晩期には乳幼児の単葬が多いことを指摘した。また本稿の棺形態分類においても大いに参考とした。1987年には既に、山本直人氏により石川県内の縄文時代土器棺墓が集成されている（山本 1987）。

九州地方では、1994年に坂本嘉弘氏により、九州地方における縄文時代後・晩期土器棺墓の出現と展開が論じられ（坂本 1994a）、滋賀県滋賀里遺跡の大洞 BC 式有文深鉢に無文浅鉢で蓋をした合蓋土器棺墓（255 号甕棺）を、合口棺と認識し九州地方後期末に創

【埋位】埋設された土器口縁の開口部中軸角度により、正・斜・横・逆位に分類。



【埋設構造】土器および土器片で構築された棺・容器構造。単・単蓋・合口・入子構造等に分類。

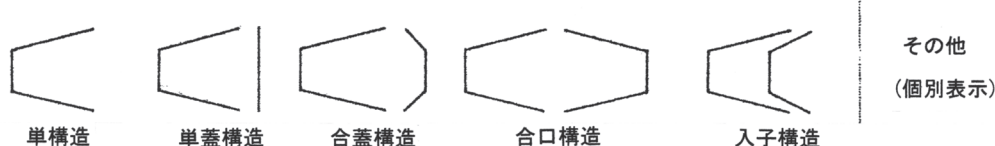


図1 本稿(立岡2000)による土器棺分類

出された「九州型埋甕」の影響を受け出現したものとした。それに対し中村健二氏は、近畿地方は別系譜であると反論し(中村1994)、再び坂本氏は前論を補足するかたちで答えている(坂本1994b)。坂本-中村論争は、大きくは合口棺の近畿独自発生説を採る中村氏と、合蓋棺を含めた合口棺の九州発生伝播説の坂本氏との対立であるが、小さくは本稿でいう合蓋棺と合口棺の棺形態分類の誤認に発生するものである。本稿では、合蓋棺は九州地方から近畿地方へ伝播した可能性は高いものの合口棺とは別系統で、合口棺については近畿地方以东で独自発生したものと認識する。

1995年には、山田康弘氏は九州地方の「埋設土器」を集成し、その用途が埋葬だけに限定されるものではなく多様性を持つ可能性が高いとし、再生を祈願されるものがすべて収納の対象になったとする「埋設土器祭祀」の存在を指摘した(山田1995)。

2000年には、第2回関西縄文文化研究会『関西の縄文墓地』が開催された(関西縄文文化研究会2000)。滋賀県・京都府・奈良県・和歌山県・大阪府・兵庫県ほか三重県に、愛知県・岐阜県・福井県を加えた地域の墓制関連遺跡が集成されるとともに、多数の研究報告・討論が展開された。その一つに、筆者による発表「近畿地方における縄文晩期土器棺の成立と展開」があった(立岡2000)。長文となるが結論のみ引用すると、以下のとおりとなる。

- I. 縄文時代後期前葉に、埋甕から発達したと思われる正位の埋設土器(土器棺)が汎日本的に分布する。
- II. 後期中葉から晩期前葉にかけて、近畿地方では埋設土器(土器棺)は減少するが、東北地方・

九州地方北部で発展・増加する。

- III. 晩期中葉には九州地方北部から、中四国地方・近畿地方および北陸地方西部・東海地方西部を東限とする、斜・横位埋設を主体とした土器棺分布圏が成立する。その分布圏は、深鉢粗製・無文化を通じた「汎西日本的土器圏」(家根1996)に一致する。
- IV. 北陸地方東部・東海地方東部を西限とした東日本では、晩期中葉においても斜・横位埋設土器棺は見られず、後期以来の正位埋設土器棺のみ分布する。
- V. 以上の事象から晩期中葉という時期には、西日本において斜・横位埋設を主体とする新しい様相と、東日本における正位埋設のみの古い様相の土器棺分布圏に二大別できる。

ここにおいて、晩期中葉における「汎西日本的土器圏」に重なる、「汎西日本的斜・横位埋設土器棺圏」を設定した。また土器および埋葬に関わる土器棺が、汎西日本的規模で変わり、同一の圏内に一体化した以上、社会における大きな変化を想定せざるを得ないとし、これは従来からの晩期の設定基準となっている亀ヶ岡文化・土器編年に対立、あるいはその影響から離れ得る視点にも成り得るとした。

翌2001年には、山田康弘氏により中国地方の「土器埋設遺構」に関する論考が発表され(山田2001)、時期的および数量的な検討とその資料数の少なさから、滋賀式3期はともかく篠原式期の近畿地方の土器棺墓に、九州・中国地方の土器埋設遺構(土器棺)は関与し得ないとした。

(2) 棺形態分類

埋位 大分類とした埋位は、埋設された土器口縁部中軸角度により、正位・斜位・横位・逆斜位・逆位に五区分したものである。便宜的に角度 60°ごとに分割する（斜位は正・左右横位の各間に、逆斜位は逆・左右横の各間に 30°）が、あくまでも目安である〔図 1 上〕。

棺構造 次の中分類を棺構造とし、土器及び土器片により構成された棺・容器形態を示す〔図 1 下〕。本稿では、単棺・単蓋棺・合蓋棺・合口棺を主体とし、その他に入子棺・組合棺や合底棺・（土器片蓋）土坑墓等に細分する。これらの分類は、棺・容器の機能として何らかの内容物を入れたという想定のもとに設定したもので、内容積を重視したものである。

単棺：土器一個体を使用したもので、全ての棺構造の基本型となる。有機物の蓋も想定（坂詰 1958）されている。深鉢以外の器種である場合、単（壺）棺等、括弧内に器種名を入れる。

単蓋棺：単棺構造の本体に、容器としての形態をとどめていない土器片を蓋として用いるもの。

合蓋棺：単棺構造の本体に、浅鉢もしくは容器の形態をとどめる土器（深鉢胴底部など）を蓋として用いるもの。

合口棺：単棺構造の容器二つの口縁を合わせたもの。本稿において従来の合口棺を、深鉢口縁部と口縁部がきっちり合わさる接口と、外蓋と内蓋の 3 細分と新規設定した。外蓋合口棺とは、外側の蓋棺（＝副棺）深鉢が、内側の主棺深鉢口頸部を覆うもの〔図 2 上左〕。また、内蓋合口棺とは、外側の主棺深鉢が、内側の蓋棺（＝副棺）深鉢口頸部を覆うもの〔図 2 上右〕。深鉢口縁部と口縁部がきっちり合わさるものは、従来名称と分別するため接口合口棺とした〔図 2 下〕。基本的に主棺となる深鉢のほうが大きい、もしくは正位・斜位においては下位に位置するものが多いが、横位かつ同一規格の合口棺である場合は、どちらが主棺・副棺となるか判別は困難である。

その他参考として、組合棺（（中村 1993b）B 類に対応）・（土器片蓋）土坑墓（（中村 1993b）C 類）・合底棺（（中村 1993b）H 類）や、入子棺（（前田 1993）Ⅱ D 類）を挙げておきたい。

また小分類として土器棺の属性を挙げ、時期（（）内は報告書記載の型式名とし、本稿では（中沢 2007）を参考とした土器型式編年を基に分別した）、残存状況、開口位（主棺口縁）、長径（埋設時の形態で計測、（）内数値は残存長径）、口径（主棺口縁、壺は残存部径）、器種構成（基本は蓋使用土器＋棺使用土器の順）、穿

孔欠損、内容物を、府県ごとに一覧表に挙げる〔土器棺集成表〕。

2. 地域的検討

(1) 近畿地方

滋賀県 近畿地方の合口棺の分布は、ほぼ滋賀県に限定される。合口棺は（全土器棺墓約 287 基中）49 基確認できる。湖西地域となる北仰西海道遺跡で、時期・埋位・棺構造の判明するものは、晚期中葉、篠原式期（古・中・新の細分不可）の斜位 5 基・横位 8 基（うち外蓋 1 基含む）、滋賀里Ⅳ式期の斜位（外蓋）1 基・横位 3 基、船橋・長原式期の横位 1 基となる〔集成表：滋賀 1〕。

湖北地域の堀部西遺跡では、船橋式期の横位 2 基（内蓋・接口 1 基）〔集成表：滋賀 5〕。杉沢遺跡では五貫森式期（船橋式併行）の横位（接口）1 基、馬見塚式期（長原式併行）の横位 2 基が確認できる〔同：滋賀 6、図 2 下〕。

湖東地域北部の六反田遺跡では、篠原式新段階の斜位（外蓋）2 基・横位（外蓋）1 基と、全てが篠原式新段階で（外蓋）合口棺であるのは注目される〔集成表：滋賀 10、図 2 上左〕。土田遺跡では、口酒井期（五貫森式併行）の横位 3 基（外蓋 1 基・内蓋 1 基・接口 1 基）、船橋式期（五貫森式併行）の横位（内蓋）2 基、五貫森式期（口酒井期・船橋式併行）の横位（接口）2 基、長原式期（馬見塚式併行）の横位 1 基である〔同：滋賀 12、図 2 上右〕。金屋遺跡では、口酒井期・船橋式期の横位 2 基（うち接口 1 基含む）がある〔同：滋賀 15〕。

対照的に、土器棺墓が多数確認されている湖東地域南部の上出 A 遺跡（全 25 基）や相原熊谷遺跡（全 30 基）、湖南地域の滋賀里遺跡（全 25 基）や穴太遺跡（全 7 基）では、合口棺は確認されていない。

京都府ほか 地域的空白域を挟んで、再び合口棺が確認されるのは、京都市の植物園北遺跡の突帯文期のもので、横位？合口棺？1 基で詳細不明である〔集成表：京都 2〕。中臣遺跡では、篠原式新段階の斜位（外蓋）1 基、晩期の横位（外蓋）1 基が確認されている〔同：京都 6〕。そして奈良県橿原市の曲川遺跡では、その可能性がある滋賀里Ⅳ式～船橋式期の横位 1 基？が確認できるのみで詳細不明である〔同：奈良 6〕。

(2) 東海地方

三重県 合口棺は（全土器棺墓約 111 基中）12 基確認できる。時期的には、詳細不明だが篠原式併行かとみ

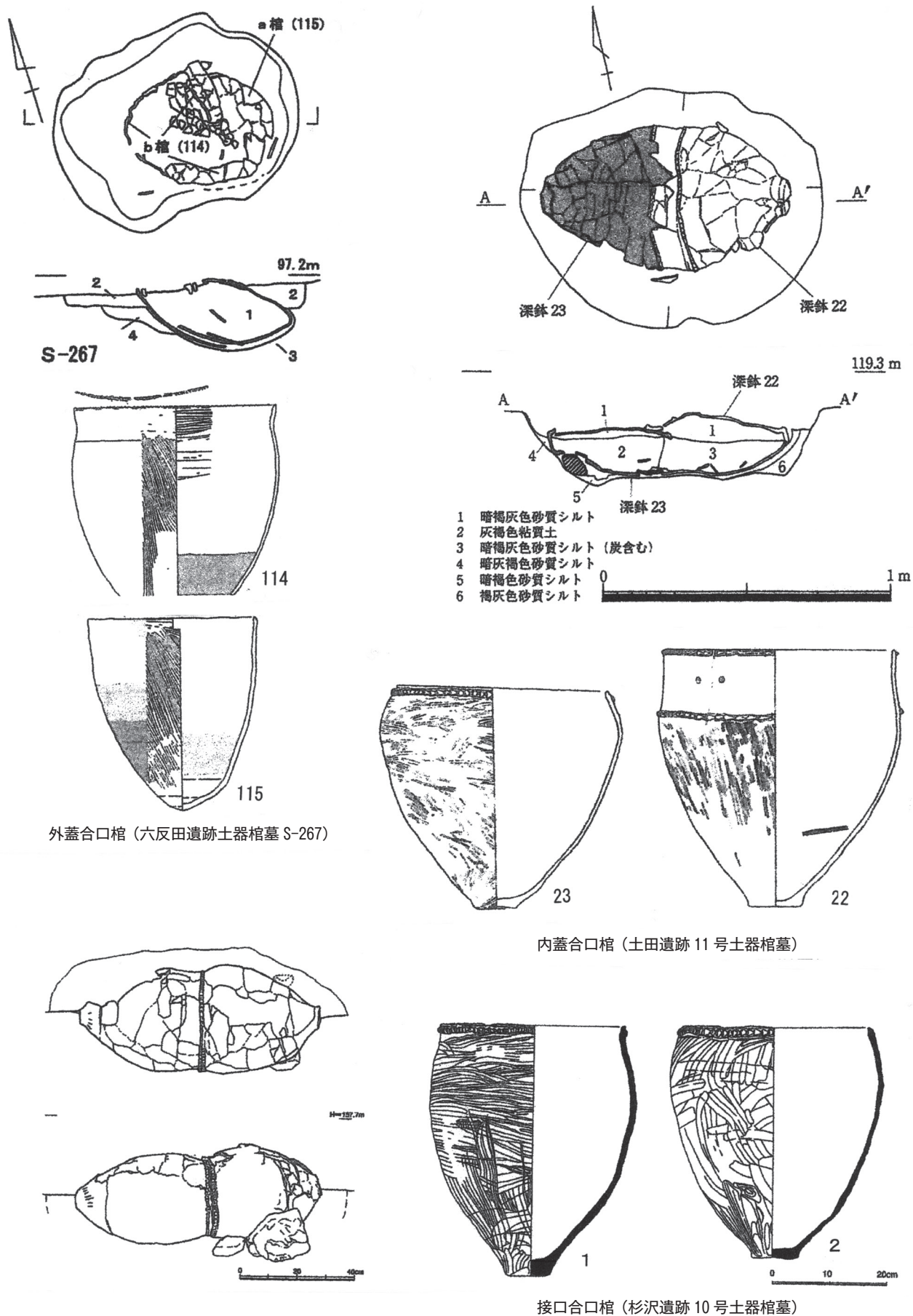


図2 合口棺の細分類 (外蓋・内蓋・接口合口棺) [縮尺 遺構 1:20、土器 1:10]

られる下川原遺跡の SX1 (横位) [集成表: 三重 1] を筆頭に、西之山式期の大原堀遺跡 SX43 (横位 (内蓋) 合口+下部連結棺) [同: 三重 23] ほか詳細不明の北一色遺跡がみられるが、五貫森式期に 10 基と集中し、しかも全て横位埋設となる。単独出土の遺跡が多く、馬見塚式以後のものは見られない。詳細が判明するもので (外蓋) 1 基・(接口) 1 基以外は、(内蓋) 合口棺が 4 基と多い。

岐阜県 合口棺は (全土器棺墓約 93 基中) 14 基確認できる。時期的には、稲荷山式期の六里遺跡 SJ2 (斜位 (外蓋) 合口棺) [集成表: 岐阜 22]、西之山式期のはいづめ遺跡第 16 号 (横位 (外蓋) 合口棺) [集成表: 岐阜 18]、馬見塚式期? の羽沢貝塚第 1 号甕棺 (横位 (外蓋) 合口棺)・第 3 号甕棺 (横位 (内蓋) 合口棺) [集成表: 岐阜 23] に代表される。稲荷山式から馬見塚式期にかけて、細別時期不明ながらまとまてみられる。稲荷山式～西之山式期には (外蓋) 4 基・(接口) 1 基・詳細不明合口棺 1 基、西之山式～五貫森式期には (外蓋) 1 基・(接口) 1 基・詳細不明合口棺 1 基、馬見塚式期には (外蓋) 1 基・(内蓋) 1 基、以後は樫王式期? の詳細不明合口棺 1 基 (炉畑遺跡第 4 地点合口甕棺) ほかとなる。

合口棺は六里遺跡 3 例が斜位埋設なのを除き、他は全て横位となる。合口棺計 14 基中、(外蓋) が 6 基と半数を占め、かつ (内蓋) が 1 例のみなのは地域差であろうか。なお (内蓋) 1 基を含む羽沢貝塚は岐阜県西南端、愛知県・三重県の 3 県境付近に位置する。

愛知県 合口棺は (全土器棺墓約 449 基中) 31 基と数が多いが、全体からの比率は低い。うち 11 基が麻生田大橋遺跡となり [集成表: 愛知 7A・7B]、同遺跡例は全て馬見塚式期でしかも横位埋設に限定される。その内訳は (外蓋) 4 基・(内蓋) 2 基・(接口) 3 基・詳細不明合口棺 2 基となる。馬見塚遺跡でも合口棺は計 14 基検出され [同: 愛知 49]、詳細が判明する五貫森式期は (外蓋) 2 基・詳細不明合口棺 2 基となるが、細別時期不明の (内蓋) 2 基・詳細不明合口棺 8 基には馬見塚式期が多数含まれているものとみられる。その他各遺跡の計 6 基の内訳は、五貫森式期の (外蓋) 1 基・詳細不明合口棺 4 基、樫王式期の詳細不明合口棺 1 基となる。樫王式期例は、今朝平遺跡の第 2 号甕棺墓 (横位 (? 蓋) 合口棺) である。

静岡県 合口棺は (全土器棺墓約 23 基中) 3 遺跡 4 基と土器棺墓全体を含め事例は少ない。しかも現時点で確認できる土器棺墓の出現範囲・時期が、静岡県西部 (遠江) 地方・晩期後葉の樫王式期から弥生中期前葉

の丸子式期と、極めて限定される特徴を持つ。合口棺の内訳は全て横位で、水神平式期の (外蓋) 合口棺 1 基・(接口) 合口棺 2 基、丸子式期の (接口) 合口棺 1 基 [静岡県集成表] となる。

(3) 北陸地方

福井県 合口棺は (全土器棺墓約 70 基中) 2 遺跡 6 基が確認できる。時期的には、晩期中葉の佐開式期 (篠原式新段階併行) とみられる、成仏・木原町遺跡の第 31 号土器棺 (横位 (外? 蓋) 合口棺)・第 33 号 (横位 (? 蓋) 合口棺) が、合口棺出現期に該当する。第 20 号 (横位 (? 蓋) 合口棺) は晩期中・後葉と細別時期不明 [集成表: 福井 5]、栗山崎遺跡は晩期とみられる横位合口棺が 2 基とされるが、時期共に詳細不明である。事例は少ないものの、福井県域は晩期中葉の佐開式期を主体とする横位合口棺の分布圏とみられるが、佐開式期から西之山式期が主体の舟寄福島通遺跡 (全 15 基) にて、合口棺がみられないことには注意が必要である。

石川県 合口棺は (全土器棺墓約 82 基中) 2 遺跡 4 基が確認できる。御経塚遺跡、B1 号埋設土器は晩期中葉の中屋 3 式期 (篠原式新段階併行)、斜位 (外蓋) 合口棺とみられる。B8 号埋設土器は晩期後葉の長竹式期、横位 (外? 蓋) 合口棺+下部蓋とみられ底部欠損する。御経塚遺跡の土器棺墓全 35 基の中で合口棺は極少数例で、しかも両土器棺の時期幅も著しい [集成表: 石川 3]。そのほか御所の館遺跡で中屋式期とみられる、横位 (外蓋・内蓋) 合口棺が各 1 基みられる [同: 石川 7]。御経塚遺跡の B1 号埋設土器の斜位という埋設形態は、後述する正位合口棺と横位合口棺との中間的形態を示すとともに、時期的に合口棺出現期に位置付けられ共に注目される。

富山県 合口棺は (全土器棺墓約 36 基中) 1 遺跡 2 基のみであり、かつ正位埋設という異質な棺埋設形態を示す。早月上野遺跡の 14 号埋設土器は晩期後葉の長竹式期か、正位 (外蓋) 合口棺で重力の影響か、上部副棺が下部主棺胴部まで覆う、ある意味で入子棺状を呈す。26 号埋設土器も晩期後葉の長竹式期か、正位 (外蓋) 合口棺で上記同様に入子棺状を呈す [集成表: 富山 1]。

富山県域の合口棺事例は 2 例と少なく、時期的にも晩期後葉の長竹式期と後出する。しかも 2 基とも正位埋設であることには、東日本 (東北) 的要素として注目したい。

新潟県 合口棺は (全土器棺墓約 293 基中) 1 遺跡 2 基と極少数で様相は不鮮明だが、富山県域と同様に正



位埋設を示す。村尻遺跡の第147号土坑は後期後葉の瘤付土器併行期か、正位（内？蓋）合口棺で、上部副棺が下部主棺頸部まで落ち込む。土圧により下部棺に落ち込んだ可能性があり、（接口）合口棺であった可能性もあるが詳細不明である。第152号土坑は後期後葉の瘤付土器併行期か、正位（内？蓋）合口棺としたが、第147号土坑と同様となる可能性がある〔集成表：新潟5〕。

3. まとめ

（1）近畿地方の様相

時期別にまとめると〔近畿地方集成表を参照〕、合口棺が確実に出現する時期の篠原式新段階では、六反田遺跡の斜位（外蓋）2基・横位（外蓋）1基、中臣遺跡の斜位（外蓋）1基である。北仰西海道遺跡例は篠原式としか細分できなかったが、斜位5基・横位8基（うち外蓋1基含む）が確認できる。滋賀里Ⅳ式期は、北仰西海道遺跡の斜位（外蓋）1基・横位3基である。口酒井期は土田遺跡で横位3基（うち外蓋1基・内蓋1基・接口1基含む）。口酒井期・船橋式期（五貫森

式併行）は土田遺跡で横位（接口）2基・杉沢遺跡で横位（接口）1基・金屋遺跡で横位2基（うち接口1基含む）、滋賀里Ⅳ式～船橋式期は曲川遺跡で横位？1基？である。船橋式期は、堀部西遺跡で横位2基（内蓋1基・接口1基）、土田遺跡で横位（内蓋）2基となる。長原式期（馬見塚式併行）は、杉沢遺跡で横位2基・土田遺跡で横位1基である。その他、滋賀里Ⅴ式（船橋式・長原式期）は北仰西海道遺跡の横位1基、突帯文期は植物園北遺跡の横位？1基、晩期は中臣遺跡の横位（外蓋）1基である。

合口棺の分布範囲を整理すると、滋賀県でもその北半部の湖北・湖西地域及び湖東地域北部を中心とする9遺跡49基、京都府京都市内で2遺跡3基、奈良県でその可能性があるもの1基となっており〔近畿地方集成表を参照〕、中村健二氏の地域A・Bの二区分どおりとなる（中村1993b）。但し滋賀県内でも土器棺墓がまとってみられる、湖東地域南部（上出A遺跡・相原熊谷遺跡）、湖南地域（滋賀里遺跡・穴太遺跡）で合口棺が見られないことには注意が必要である。京都府中臣遺跡例は分布西限となる確実な合口棺である

が、飛び石的な分布となる [図 3]。

合口棺の分布及び時期的変遷をまとめると、以下のとおりとなる。

- I. 近畿地方における合口棺の出現（といえは滋賀県に限定されるが）は、篠原式新段階と考えられ、斜位（外蓋）合口棺が多い [図 2 上左]。以後、合口棺は口酒井期・船橋式期から長原式期まで存続するが、近畿地方では、弥生前期、遠賀川式期には取り入れられず消滅するとみられる。
- II. 篠原式新段階では、（外蓋）合口棺は斜位 4 基・横位 1 基で、（内蓋）合口棺 [図 2 上右] は見られない。それに対し、口酒井期～船橋式期では、（外蓋）合口棺は斜位 1 基・横位 1 基のみで、かつ（内蓋）合口棺が横位 4 基となり、明らかな転換がみられる。また（接口）合口棺 [図 2 下] も出現する（6 基）。
- III. 篠原式新段階である滋賀県六反田遺跡において、副棺となる外側の完形深鉢が、主棺となる内側の完形深鉢の口頸部まで覆う斜位（外蓋）合口棺（S267 土器棺墓） [図 2 上左] がみられる。篠原式新段階の合口棺に斜位が多いこと、また次期の滋賀里Ⅳ式では合口棺に横位が多いことも、斜位（外蓋）合口棺から、横位（内蓋）・（接口）合口棺への変遷を示す傍証にも成り得ようか。

更に要約すると、(1) 篠原式新段階における斜位（外蓋）合口棺の出現成立、(2) 口酒井期～船橋式期の横位（内蓋）合口棺への変換とともに、(3) 口酒井期以後には横位（接口）合口棺へと、時期とともに変遷する過程を示す。つまり、合口棺は「出自を示す」ために発明されたのではなく、（外蓋）合口棺から（内蓋）・（接口）合口棺へと、時期とともに、その形態（及び機能・容量）を徐々に増大させるなかで出現した点を強調し小結としたい。

（2）東海地方の様相

三重県では、未だ合口棺出土事例は計 12 基と十分とは言えず、詳細不明を除くと横位（内蓋）合口棺が 4 基とやや多くみられるが、これは五貫森式期を主体とした時期的要因によるものとみられる [三重県集成表]。（外蓋）合口棺は天保遺跡の 1 基、（接口）合口棺は蛇亀橋遺跡の 1 基のみである。大原堀遺跡は、稲荷山式から西之山式期の土器棺墓が 12 基みられるのに対し、西之山式期の横位（内蓋）合口棺 + が 1 基と極

めて限定される。

岐阜県も合口棺出土事例は計 14 基と少ないが、三重県と対照的に（外蓋）合口棺が 6 基と半数を占め、横位（内蓋）合口棺は 1 例（三重県境に近い羽沢貝塚第 3 号甕棺例のみ）となる。六里遺跡は最古段階といえる稲荷山式期の斜位（外蓋）合口棺 1 基ほか、稲荷山～西之山式期の斜位（外蓋）合口棺 2 基がみられる [岐阜県集成表]。（外蓋）合口棺が優位なのは、稲荷山式から西之山式期を主体とした時期的要因ともいえるが、（内蓋）合口棺が 1 例だけなのは地域差となる可能性もある。今後の事例を待ちたい。

愛知県における合口棺出土事例は計 31 基と多いものの時期的偏りも大きく、全て横位埋設である [愛知県集成表]。五貫森式期の（外蓋）3 基・詳細不明合口棺 5 基、麻生田大橋遺跡例に限定される馬見塚式期の（外蓋）4 基・（内蓋）2 基・（接口）3 基・詳細不明合口棺 3 基と様々な形態があり、以後は詳細時期不明の（内蓋）2 基・詳細不明合口棺 8 基を除くと、檜王式期の詳細不明合口棺 1 基（今朝平遺跡）となる。詳細時期不明分を考慮しても、檜王式期はわずか 1 基で水神平式期は皆無というのは劇的な減少ではあるが、深鉢等の同一器種を用いた合口棺から、壺を主棺に用いた合蓋（壺）棺への変換を考慮したい。これは北陸地方においても同様とみられる。愛知県の全体的な合口棺の流れとしては、五貫森式期には（外蓋）が、馬見塚式期には麻生田大橋遺跡例に代表される各形態の増加と、馬見塚遺跡の時期不明分を考慮した（内蓋・接口）合口棺の存在が推定される。

静岡県における合口棺の事例は、前述のとおり晩期後葉以後が主体となり後出的で、その発生地とは成り得ないことが判明し、必然的に関東地方及び山梨県も遮断されることから、合口棺を含めた土器棺墓発生の候補地からも外れる。

滋賀県内事例の検討の結果、篠原式新段階における合口棺の出現と、篠原式新段階における斜位（外蓋）合口棺から口酒井期～船橋式期における横位（内蓋）合口棺・横位（接口）合口棺への転換、という二点を指摘した。三重県事例は未だ少ないものの五貫森式期における横位（内蓋）合口棺の優勢を、これに対し岐阜県は横位（内蓋）合口棺が少数という地域差（時期差か）がみられる。また静岡県内事例からは、後出的で主たる分布域から外れる様相が読み取れた。

これら東海 4 県での合口棺の集成検討の結果、判明したのは出現期の合口棺事例が非常に少ないことである。これは想定外であった。三重県では、様相不明な

表 合口土器棺集成表

近畿地方 《滋賀県》												
番号	遺跡名	遺構名	土器棺									
			時期(報告書記載型式名)	埋位	棺構造	残存状況	開口位	長径	口径	器種構成	穿孔	内容物
1-3	北仰西海道遺跡 【高島市旧今津町】	3号土器棺墓	篠原式か	横位	合口棺?							
1-4		4号土器棺墓	篠原式か	斜位	合口棺?							
1-5		5号土器棺墓	篠原式か	横位	合口棺?					無文深鉢+	底部穿孔	
1-9		9号土器棺墓	滋賀里Ⅳ式か	横位	合口棺?							
1-10		10号土器棺墓	篠原式か	斜位	合口棺?							
1-41		41号土器棺墓	滋賀里Ⅳ式	斜位	合口棺?	残存不良	東 N81° E					
1-42		42号土器棺墓	滋賀里Ⅳ式～船橋式か	横位	(?蓋)合口棺	上半部削平	西 N86° W	72	38	【西棺】突帯文深鉢+ 【東棺】突帯文深鉢		
1-43		43号土器棺墓	滋賀里Ⅳ式か	横位	(?蓋)合口棺	上半部削平	西南西 N70° W	64	(34)	【西棺】深鉢+ 【東棺】深鉢		
1-45		45号土器棺墓	篠原式か	横位	合口棺?	上部削平	南東S35° E					
1-47		47号土器棺墓	滋賀里Ⅳ式～船橋式か	横位	合口棺?		北東N44° E			突帯文深鉢+突帯文深鉢		
1-48		48号土器棺墓	篠原式か	横位	合口棺		東 N88° E					
1-54		54号土器棺墓	篠原式か	斜位	合口棺?	上部削平	北西N48° W					
1-55		55号土器棺墓	篠原式か	斜位	合口棺?	上部削平	北西N54° W					
1-60		60号土器棺墓	滋賀里Ⅴ式	横位	合口棺		北東N53° E			突帯文深鉢+突帯文深鉢		
1-61		61号土器棺墓	滋賀里Ⅴ式	横位	合口棺?					突帯文深鉢+		
1-64		64号土器棺墓	篠原式か	横位	合口棺?							
1-71		71号土器棺墓	滋賀里Ⅳ式か	斜位	合口棺?							
1-72		72号土器棺墓	篠原式か	横位	(?蓋)合口棺	ほぼ完形		64		【東棺】深鉢+ 【西棺】深鉢		
1-77		77号土器棺墓	滋賀里Ⅳ式	斜位	(外蓋)合口棺	完形		64		【西棺】無文深鉢+ 【東棺】突帯文深鉢		
1-80		80号土器棺墓	篠原式か	横位	(外蓋)合口棺	一部削平		60		【東棺】深鉢+ 【西棺】深鉢		
1-81		81号土器棺墓	篠原式か	横位	合口棺?							
1-92		92号土器棺墓	晩期中葉以後	横位	(?蓋)合口棺	ほぼ完形	西		(80)	【東棺】深鉢+ 【西棺】深鉢		
5-1	堀部西遺跡 【長浜市】	SZ101	(口酒井期・)船橋式併行か	横位	(接口)合口棺	1/2削平	南北	92	43.2	【南棺】突帯文深鉢[34]+ 【北棺】突帯文深鉢[35]		
5-3		SZ103	(口酒井期・)船橋式併行か	横位	(内蓋)合口棺	1/2削平	南西	60	41.4	【北棺】突帯文深鉢[38]+ 【南棺】バケツ形無文深鉢[38]		
6-1	杉沢遺跡【米原市旧伊吹町】	1号	五貫森式(馬見塚式)	横位	単蓋棺? or 合口棺?		東-西		36.0	突帯文深鉢+		
6-3		3号	(五貫森式・)馬見塚式	横位	(?蓋)合口棺	上部削平か	北東-南西		31.0	【西棺】突帯文深鉢+【東棺】突帯文深鉢+ 【接合部蓋】突帯文深鉢片		
6-4		4号	(五貫森式・)馬見塚式	横位	(?蓋)合口棺	破損顕著	西北-東南		30.0	【南棺】突帯文深鉢+ 【北棺】突帯文深鉢		
6-5		5号			合口棺?		西北-東南					
6-6		6号			合口棺?		西北-東南					
6-7		7号			合口棺?		西北-東南					
6-8		8号		横位	合口棺?		北北東-南南西					
6-10		10号	五貫森式(馬見塚式)	横位	(接口)合口棺	完形	北東	84	32.2	【東棺】突帯文深鉢[2]+ 【西棺】突帯文深鉢[1]		焼人骨片
6-11		11号	篠原式新段階	横位	単蓋棺? or 合口棺?	上半部削平	南西	58		【東棺】無文深鉢片[4]+ 【西棺】無文深鉢[3]		
8	三大寺遺跡【米原市旧米原町】	埋設土器	長原式	横位	合口? 棺							
10-1	六反田遺跡 【彦根市】	S24B	篠原式新段階	斜(横か)位	(外蓋)合口棺?	1/4削平	東北東	54	(33.9)	【西棺】無文深鉢[105]+ 【東棺】無文深鉢片[106・107]		
10-2		S24C	篠原式新段階	横位	(外蓋)合口棺	1/4削平	東	64	33.9	【西棺】無文深鉢[108]+ 【東棺】無文深鉢[109]		
10-5		S267	篠原式新段階	斜位	(外蓋)合口棺	上端部削平	西北西	52	29.1	【東棺】バケツ形深鉢[114]+ 【西棺】無文深鉢[115]		
12-6	土田遺跡 【多賀町】	6号土器棺墓	口酒井期・五貫森式	横位	(接口?)合口棺	上端部削平	北東 N25° E	84	35.8	【北棺】突帯文深鉢[13]+ 【南棺】東海系突帯文深鉢[14]		
12-8		8号土器棺墓	口酒井期か(船橋式)	横位	(内蓋)合口棺	上部削平	東 N87° E	60	24.5	【東棺】突帯文深鉢[17]+ 【西棺】突帯文深鉢[18]		
12-10		10号土器棺墓	船橋式	横位	(内蓋)合口棺	上部削平	東北東 N64° E	88	(59.4)	【東棺】突帯文深鉢[20]+ 【西棺】口縁部欠突帯文深鉢[21]		焼人骨片
12-11		11号土器棺墓	船橋式	横位	(内蓋)合口棺	ほぼ完形	西北西 N80° W?	86	36.2	【東棺】突帯文深鉢[22]+ 【西棺】バケツ形突帯文深鉢[23]		焼人骨片、動物骨、ベンガラ
12-14		14号土器棺墓	口酒井期・五貫森式か(船橋式)	横(斜?)位	(外蓋)合口棺	上半部削平	北西 N53° W	(58)	35.3	【東棺】突帯文深鉢[27]+ 【西棺】突帯文深鉢[28]		
12-15		15号土器棺墓	長原式・馬見塚式か(船橋式)	横位	(?)合口棺	上半部削平	北東 N47° E	(64)	25.5	【東棺】突帯文深鉢[30]+ 【西棺】突帯文深鉢[29]		
12-16		16号土器棺墓	五貫森式か(船橋式)	横位	(接口)合口棺+底部補綴	上半部削平	北東 N43° E	(70)	31.1	【東棺】突帯文深鉢[32]+【西棺】突帯文深鉢[31]+ 【補】有文浅鉢? 片[33]		
12-17		17号土器棺墓	五貫森式	横位	(接口)合口棺	上半部削平	北東 N55° E	(74)	(34.2)	【東棺】口縁部欠突帯文深鉢[34]+ 【西棺】突帯文深鉢[35]		
15-3	金屋遺跡 【甲良町】	S-505A	口酒井期・船橋式併行か	横位	(?蓋)合口棺	上部削平	東北東	70	30.2	【東棺】突帯文深鉢[100]+ 【西棺】突帯文深鉢[99]		
15-4		S-507D	口酒井期・船橋式併行か	横位	(接口)合口棺+入れ子棺	上部削平	南南西	70 (内棺52)	36.8 (内棺27.0)	【北棺】突帯文深鉢[103]+【南棺】突帯文深鉢[101]+ 【入子棺】突帯文深鉢[102]		
18	木流遺跡【東近江市旧五個荘町】	土器棺墓 SX01	長原式	斜位	合口? または合蓋?	上部削平		42	24.8	突帯文深鉢		
30-2	志那湖底遺跡 【草津市】	SK2	滋賀里式2期	横位?	合口棺?	上半部削平か	東北東-西南西			無文深鉢[129]+無文深鉢[130]		
《京都府》												
番号	遺跡名	遺構名	土器棺									
			時期(報告書記載型式名)	埋位	棺構造	残存状況	開口位	長径	口径	器種構成	穿孔	内容物
2-1	植物園北遺跡 【京都市】	ビット2	晩期	横位か	合口棺か					突帯文深鉢+突帯文深鉢		
6-11	中臣遺跡 【京都市】	SK-4	晩期か	横位	(外蓋)合口棺	上端部削平か						
6-14		SX917	篠原式新段階	斜位か	(外蓋)合口棺	上半部削平				【蓋】有文深鉢片[2]+ 【棺】有文深鉢[1]	底部欠か	

《奈良県》

番号	遺跡名	遺構名	土器棺								穿孔	内容物
			時期(報告書記載型式名)	埋位	棺構造	残存状況	開口位	長径	口径	器種構成		
6-1	曲川遺跡 【橿原市】	土器棺1	滋賀里Ⅳ～船橋式?	横位	合口棺+単棺?	上端部削平か	東西	84+	34	深鉢+深鉢(+深鉢)		

東海地方 《三重県》

番号	遺跡名	遺構名	土器棺墓								穿孔	内容物
			時期(報告書記載型式名)	埋位	棺構造	残存状況	開口位	長径	口径	器種構成		
1-1	下川原遺跡 【名張市】	土器棺墓 SX1	篠原式併行か(滋賀里Ⅲa式)	横位	(?蓋)合口棺か	上部削平か				深鉢+深鉢か		
2-2	権現坂遺跡 【いなべ市】	SX35	五貫森式か	?	単蓋棺or合口棺					【蓋】無文深鉢下半部(図)+ 【棺】一条突帯文深鉢上半部(図)		
4	山田遺跡 【東員町】	SK201	(五貫森式)	?	合口棺か					一条突帯文深鉢(図)+ 一条突帯文深鉢(図)		
5-5	志知南浦遺跡 【桑名市】	土器棺墓 SX109	(五貫森式新)	横位	(内蓋)合口棺+複合棺	棺一部削平	南東	(64)	44	【蓋】一条突帯文深鉢片[11]+【内棺】一条突帯文深鉢[10]+【外棺】二条突帯文深鉢[9]		
5-9		土器棺墓 SX129	(五貫森式新)	横位	(?蓋)合口棺	上端部削平	北北東	82	42	【北棺】一条突帯文深鉢[17]+ 【南棺】一条突帯文深鉢[16]		磨製石斧 [18]
11	北一色遺跡 【鈴鹿市】	合口壺棺墓 4基	篠原式新段階～西之山式か	横位か	(?蓋)合口棺							
15	高寺遺跡 【津市】	SX3	(五貫森式)	横位	(内蓋)合口棺か	上部削平か	北東	54		【内棺】一条突帯文深鉢(図)+ 【棺】二条突帯文深鉢(図)		
18-1	蛇亀橋遺跡 【松阪市】	壺棺墓 SX1	(五貫森式)	横位か	合口棺か					二条突帯文深鉢[23]+ 二条突帯文深鉢上半部[25]		
18-2		壺棺墓 SX2	(五貫森式)	横位か	合口棺か	残存不良				二条突帯文深鉢[18]+ 二条突帯文深鉢[24]		
18-3		壺棺墓 SX3	(五貫森式)	横位	(内蓋か)合口棺	上部削平	南南西			一条突帯文深鉢[12]+ 一条突帯文深鉢[?]		
18-4		壺棺墓 SX4	(五貫森式)	横位	(接口)合口棺	上部削平	北北西			一条突帯文深鉢[10]+ 一条突帯文深鉢[22]		
19	天保遺跡 【松阪市】	SX1	(五貫森式)	横位	(外?蓋)合口棺	上半部削平	南北 N13° E	65	37	【北棺】二条突帯文深鉢[2]+ 【南棺】二条突帯文深鉢		
23-11	大原堀遺跡 【松阪市】	土器棺墓 SX43	(西之山式)	横位	(内蓋)合口+下部連結棺	一部削平	西南西 S69° W	70	42	【副棺】バケツ形無文深鉢[22]+ 【主棺】一条突帯文深鉢[23]+【下部蓋】無文浅鉢[24]		

《岐阜県》

番号	遺跡名	遺構名	土器棺墓								穿孔	内容物
			時期(報告書記載型式名)	埋位	棺構造	残存状況	開口位	長径	口径	器種構成		
11-1	炉畑遺跡 【各務原市】	合口壺棺(第4地点)	(櫻王式)	横位	合口棺か							
16-4	上原遺跡(揖斐川町旧藤橋村)	土器棺墓 SZ4	(稲荷山式～西之山式)	横位	(?)合口棺か	上部2/3削平	北北西 N32° W	(48)	(26)	無文深鉢[1005]+無文深鉢[1006]		
16-6		土器棺墓 SZ6	(西之山式～五貫森式)	横位	(?)合口棺か	上部2/3削平	東北東 N58° E			一条突帯文深鉢[1008]+ 無文深鉢[1009]		剥片2
17-4	戸入村平遺跡(揖斐川町旧藤橋村)	第7号土器棺墓 SZ7	(稲荷山式～西之山式)	横位	(接口)合口棺か	上部削平か	南東 S40° E	80	48	【北棺】無文深鉢[511]+ 【南棺】無文深鉢[510]+ 【蓋】無文深鉢片[512]		
18-6	はいづめ遺跡(揖斐川町旧藤橋村)	第6号土器棺墓	晩期	横位	(?蓋)合口棺	残存不良	北北西 N17° W	72	40			
18-11		第11号土器棺墓	西之山式～五貫森式か(五貫森式～下り松式)	横位	(接口)合口棺	2/3削平	東北東 N57° E	53		【東棺】一条突帯文深鉢[99]+ 【西棺】一条突帯文深鉢[61]		
18-12		第12号土器棺墓	西之山式～五貫森式か(下り松式)	横位	(外蓋)合口棺	上部削平か	西 N90° W	37		【外棺】無文深鉢[75]+ 【内棺】無文深鉢[108]		
18-16		第16号土器棺墓	西之山式か	横位	(外蓋)合口棺か	2/3削平	北東 N42° E	51		【外棺】無文深鉢片[78]+ 【内棺】無文深鉢[69]		
22-1	六里遺跡 【大野町】	土器股遺構 SJ1	稲荷山式～西之山式(稲荷山式)	斜位(40°)	(外蓋)合口棺	上端部削平	南西 S40° W	50	40	【上棺】無文深鉢[269]+ 【下棺】無文深鉢[270]		
22-2		土器股遺構 SJ2	(稲荷山式)	斜位(35°)	(外蓋)合口棺	一部陥没ほか完形	北北東 N25° E	52	40	【上棺】無文深鉢[271]+ 【下棺】無文深鉢[272]		大型石皿片 [273]
22-10		土器股遺構 SJ10	稲荷山式～西之山式(西之山式)	斜位(30°)	(外蓋)合口棺	上端部削平	北北東 N19° E	54		【上棺】無文深鉢[300]+ 【下棺】無文深鉢[301]		
22-11		土器股遺構 SJ11	(西之山式)	斜位(25°)	(合口状)複合棺か	完形	南 S1° E	56		【上棺】一条突帯文深鉢[304]+ 【下棺】無文深鉢片[302-303]		
23-1	羽沢貝塚 【海津市旧南濃町】	第1号壺棺	馬見塚式(晩期後半)	横位	(外蓋)合口棺	完形	南東	74	54	【副棺】バケツ形条痕文深鉢[1]+ 【主棺】一条突帯文深鉢[2]	底欠	
23-3		第3号壺棺	(晩期後半)	横位	(内蓋)合口棺	一部攪乱	南南東	(46)	48	【副棺】バケツ形条痕文深鉢[4]+ 【主棺】一条突帯文深鉢[5]	底欠	

《愛知県》

番号	遺跡名	遺構名	土器棺墓								穿孔	内容物
			時期(報告書記載型式名)	埋位	棺構造	残存状況	開口位	長径	口径	器種構成		
7A-14	麻生田大橋遺跡(黒調査) 【豊川市】	土器棺墓 SZ14	(Ⅱa五貫森新～馬見塚式)	横位	(内蓋)合口棺	上部削平か	北西 N37° W	56		【主棺】バケツ形無文深鉢[14]+ 【副棺】バケツ形条痕文深鉢[13]	底部穿孔	
7A-27		土器棺墓 SZ27	(Ⅱb馬見塚式)	横位(28°)	(外蓋)合口棺	上半部削平	南 S0° W	70		【主棺】低突帯系深鉢[41]+ 【副棺】バケツ形条痕文深鉢[42]	副棺胴部穿孔	
7A-54		土器棺墓 SZ54	(Ⅱb馬見塚式)	横位	(外蓋)合口棺か	上部2/3削平か	西北西 N58° W	(50)		【主棺】バケツ形条痕文深鉢[76]+ 【副棺】バケツ形条痕文深鉢上半部[78]		
7A-59		土器棺墓 SZ59	(Ⅱc馬見塚新～櫻王古)	横位	(内蓋)合口棺か	上部削平か	東 N90° E	80		【主棺】バケツ形無文深鉢[82]+ 【副棺】バケツ形条痕文深鉢[83]		
7B-8	麻生田大橋遺跡(豊川市調査) 【豊川市】	土器棺墓 SZ8	(馬見塚式)	横位	(接口)合口棺	上部2/3削平	東-西方向	74		【東棺】無文深鉢(8-1)+ 【西棺】無文深鉢上半部(8-2)		
7B-28		土器棺墓 SZ28	(馬見塚式)	横位	(接口)合口棺	一部攪乱か	北北東-南南西方向	86	48	【北棺】低突帯系深鉢片[28-1]+ 【南棺】低突帯系深鉢[28-2]		
7B-34		土器棺墓 SZ34	(馬見塚式)	横位	(間隔?)合口棺か	上半部削平	北北東-南南西方向	86	40	【北棺】低突帯系深鉢[34-1]+ 【南棺】二条突帯文深鉢[34-2]		
7B-43		土器棺墓 SZ43	(馬見塚式)	横位	(接口)合口棺	完形	南-北方向	94	40	【北棺】低突帯系深鉢[43-1]+ 【南棺】低突帯系深鉢[43-2]		
7B-50		土器棺墓 SZ50	(馬見塚式)	横位	(外?蓋)合口棺	一部削平	北北西-南南東方向	48	(36)	【北棺】無文深鉢[50-2]+ 【南棺】バケツ形無文深鉢[50-1]		
7B-89		土器棺墓 SZ89	(馬見塚式)	横位	(?)合口棺か	1/2攪乱か	西北西-東南東方向	72		【棺】バケツ形無文深鉢[89-1]+ 【棺】バケツ形無文深鉢[89-2]		

7B-129	麻生田大橋遺跡(豊川市調査) 【豊川市】	土器棺墓SZ129	(馬見塚式)	横位	(外蓋)合口棺	ほぼ完形	西-東方向	62	38	【西棺】条痕文深鉢下半部[129-2] + 【東棺】バケツ形条痕文深鉢[129-1]		
14	五貫森遺跡【豊橋市】	合口棺	(五貫森式)	横位	合口棺か	ほぼ完形か	北西方向	88	37	無文深鉢[5] + 無文深鉢[6]		
25-3	今朝平遺跡【豊田市旧足助町】	壺棺墓第2号	(壺王式)	横位	合口棺					深鉢 + 深鉢		スクレーパー
38-12	神明遺跡【岡崎市】	土器棺12	(五貫森式)	横位	合口棺?					一条突帯文深鉢上半部[2] + 有文鉢上半部[3]		
38-13		土器棺13	(五貫森式)	横位	合口棺?					深鉢か		
49-1	馬見塚遺跡 【一宮市】	1号地1	五貫森式新	(斜)横位	(外?蓋)合口棺		北			【副棺】バケツ形一条突帯文深鉢[図版六二-6] + 【主棺】一条突帯文深鉢[図版六二-12]		
49-2		1号地2			(?蓋)合口棺							
49-4		1号地4			(?蓋)合口棺		南北					
49-5		1号地5			(?蓋)合口棺							
49-7		1号地7	五貫森式古	横位か	(?蓋)合口棺		南西-北東					
49-9		1号地9			(?蓋)合口棺							
49-10		2号地1			(?蓋)合口棺		北北東					
49-12		3号地		横位か	(内?蓋)合口棺		東-西					
49-18		6号地1			(?蓋)合口棺		南-北					
49-21		7号地		横位	(内?蓋)合口棺		西					
49-24		9号地2		(斜)横位	(?蓋)合口棺		南-北					
49-25		合せ口土器棺	五貫森式古	(斜)横位	(外?蓋)合口棺					【副棺】一条突帯文鉢[図版六二-5] + 【主棺】小型一条突帯文深鉢[図版六二-4]		
49-35		E-41グリット土器棺	晩期か		合口棺か	上部削平か				深鉢胴底部[10図12]か		
49-37		合口土器棺	五貫森式	横位	合口棺か	上部削平				無文深鉢[展示図録P47]		
53-40	牛牧遺跡 【名古屋市中区】	土器棺墓SZ40	五貫森式	横位	(?蓋)合口棺	上半部削平	西南西-東北東か	65	35	【外棺】バケツ形無文深鉢[61] + 【内棺】バケツ形無文深鉢[62]		
53-42		土器棺墓SZ42	五貫森式新 (馬見塚式)	横位	(外?蓋)合口棺	完形	南西か	58	33	【外棺】バケツ形無文深鉢[65] + 【内棺】バケツ形一条突帯文深鉢[64]		

《静岡県》

番号	遺跡名	遺構名	土器棺										
			時期(報告書記載型式名)	埋位	棺構造	残存状況	開口位	長径	口径	器種構成		穿孔	内容物
2-2	原川遺跡 【掛川市】	土器棺墓 SF806	(弥生中期前葉・丸子式)	横位	(接口)合口棺	完形	北北東・南南西方向	63	37	【棺A】条痕文蓋[15図上]+【棺B】条痕文蓋[15図下]+【継目蓋C】条痕文蓋胴部片			脂肪酸分析で高等動物推定
4-3	沢上VI遺跡 【浜松市】	土器棺SK382	(水神平式)	横位	(外蓋)合口棺+棺固定土器片	上部陥没	東南東	64	38	【東棺】条痕文蓋[1106-81]+【西棺】条痕文蓋[1102]+【棺固定】条痕文蓋胴底部片[1107-1]・上半部片[1107-11・23・68]			
4-4		土器棺SK383	水神平式か	横位	(接口)合口棺か	上部2/3削平				【東棺】条痕文蓋[1089]+【西棺】条痕文蓋口頭部片[1092]			
7-3	前原VIII遺跡 【浜松市】	土器棺SK85	(水神平式)	横位	(接口)合口棺+棺固定土器片	上半部削平	北北東・南南西方向	54	34	【北棺】条痕文蓋[369]+【南棺】条痕文有文蓋[370]・+【棺固定】条痕文蓋片[366-13・15]			

北陸地方 《福井県》

番号	遺跡名	遺構名	土器棺										穿孔	内容物
			時期(報告書記載型式名)	埋位	棺構造	残存状況	開口位	長径	口径	器種構成				
1-1	茶山崎遺跡(あわら市旧金津町)			横位	(?)合口棺か									
1-2				横位	(?)合口棺か									
5-13	成仏・木原町遺跡[永平寺町]	第13号土器棺	甕置式か(晩期)	横位	(?蓋)合口棺	上部削平	北北西 N30° W	62	46	【南棺】バケツ形条痕文深鉢[13図3.72]+【北棺】バケツ形条痕文深鉢[13図4.43]			体幹骨・体肢骨	
5-20		第20号土器棺	晩期中・後葉(晩期)	横位	(?蓋)合口棺か	上部3/4削平	北北西 N31° W	(54)						
5-31		第31号土器棺	佐開式か(晩期)	横位	(外?蓋)合口棺	ほぼ完形	北東 N54° E	74	44	無文深鉢[13図5.5]+無文深鉢[13図2.6]+無文深鉢[13図2.17]			磨石1	
5-33		第33号土器棺	佐開式か(晩期)	横位	(?蓋)合口棺	上端部削平	北 N0° E	70	48	無文深鉢[13図1.32]+無文深鉢				

《石川県》

番号	遺跡名	遺構名	土器棺										穿孔	内容物
			時期(報告書記載型式名)	埋位	棺構造	残存状況	開口位	長径	口径	器種構成				
3-10	御経塚遺跡 【野々口市】	B1号埋設土器	晩期中葉(中屋3式)	斜位(40°)	(外蓋)合口棺か	上部削平か	東南東 S67° E	56	36	【副棺】バケツ形無文深鉢[50図78] +【主棺】無文深鉢[50図77]				
3-17		B8号埋設土器	晩期後葉(長竹式)	横位	(外?蓋)合口棺+下部蓋	上部削平か	南西 S34° W	78	56	【主棺】バケツ形条痕文深鉢[53図88]+【副棺】有文深鉢[52図89]+ 【下部蓋】条痕文深鉢胴底部か[52図90]			底部欠損	
7-8	御所の館遺跡 【白山市 旧尾口村】	土器棺 K-12	中屋式か	横位	(内蓋)合口棺	完形	南南西	60	42	【副棺】無文深鉢[9図1]+【主棺】無文深鉢[9図3]				
7-11		土器棺 L-12	中屋式か	横位	(外?蓋)合口棺	完形	東北東	68	30	【副棺】無文深鉢[9図2]+【主棺】無文深鉢[9図4]				

《富山県》

番号	遺跡名	遺構名	土器棺										穿孔	内容物
			時期(報告書記載型式名)	埋位	棺構造	残存状況	開口位	長径	口径	器種構成				
1-14	早月上野遺跡 【魚津市】	14号埋設土器	晩期後葉、長竹式か	正位	(外蓋)合口 箱	上部削平	—	(38)	32	【副棺】バケツ形無文深鉢頭胴部 [818] + 【主棺】バケツ形無文深鉢 [817]			石刀片 [1522]	
1-26		26号埋設土器	晩期後葉、長竹式か	正位	(外蓋)合口 箱	上半部削平	—	(24)	(30)	【副棺】無文深鉢頭胴部[842]・有文 浅鉢片[843] + 【主棺】無文深鉢頭 胴部[844]		底部欠損		

《新潟県》

番号	遺跡名	遺構名	土器棺										
			時期(報告書記載型式名)	埋位	棺構造	残存状況	開口位	長径	口径	器種構成		穿孔	内容物
5-40	村尻遺跡 【新発田市】	第147号土坑	後期後葉(瘤付土器併行)	正位	(内蓋)合口棺	上部削平か	—	30	(30)	【副棺】深鉢+【主棺】深鉢			
5-42		第152号土坑	後期後葉(瘤付土器併行)	正位	(内蓋)合口棺か	上部陥没か	—	36		【副棺】深鉢+【主棺】深鉢			

が篠原式期とみられる下川原遺跡 SX1 (横位 (? 蓋)) が、岐阜県では稲荷山式期の六里遺跡 SJ2 (斜位 (外蓋)) がみられるのみで、数基まとまったり、あるいは時期継続してみられない。六里遺跡を有する岐阜県のみ、稲荷山式期から西之山式期に合口棺が数基まとまってみられるだけで、滋賀県の様相に近似する。むしろ、合口棺発生期とみられる篠原式から西之山式期の様相は、滋賀県のほうがより多く確認でき、出現地についてはより範囲が限定できるようになってきた。改めて、中村健二氏による「滋賀・岐阜・福井 3 県境における合口棺発生説」(中村 1993a・b) が注目を集める結果となった。

(3) 北陸地方の様相

新潟県の事例も少なく不明な点が多いが、富山県の正位合口棺を鑑みると、正位合口棺の由来がより東日本 (東北地方) と関連づけられる可能性も想定した。つまり、東北地方の正位合口棺から、新潟・富山県を介し、石川県の斜位合口棺 (御経塚遺跡の B1 号埋設土器)、そして福井県の横位合口棺へという、合口棺の成立に東北方面の影響を想定したものだが、その可能性は低い。むしろ (石川・) 福井・滋賀・岐阜 3 県境を中心とする地域における、篠原式新段階の斜位 (外蓋) 合口棺から口井原期の横位 (接口) 合口棺への方向性を重視した、棺内容積拡大を目的とした合口棺の成立との関連性を見いだしたい。

北陸地方における合口棺の最古例は、石川県御経塚遺跡の B1 号埋設土器 (中屋 3 式、斜位 (外蓋) 合口棺か) である。これは列举すると、滋賀県六反田遺跡のいずれも篠原式新段階の 3 基、S24B と S267 (斜位 (外蓋) 合口棺)・S24C (横位 (外蓋) 合口棺)、そして京都府中臣遺跡例 (篠原式新段階か、斜位 (外蓋) 合口棺か)、岐阜県戸入村平遺跡の土器棺墓 SZ7 (横位 (接口) 合口棺、稲荷山式～西之山式期か)、六里遺跡の 3 基、土器埋設遺構 SJ1・2・10 (稲荷山式～西之山式期、斜位 (外蓋) 合口棺) と時期的に併行する。いずれも篠原式 (新段階) から滋賀里 IV 式併行期となる、(桜井) 稲荷山式から西之山式期に位置付けられ、斜位 (外蓋) 合口棺を主体とする。未だ確認数は少ないものの、北陸地方においても合口棺出現期および地域が極めて限定できる見通しとなった [北陸地方集成表]。

おわりに

合口土器棺墓については、その卵形を呈す形態から再生観念を含め様々な想定がなされてきた。古くは昭

和 13 年、かつての小林行雄氏も緻密な観察とともに、縄文時代晩期、滋賀県杉沢遺跡の合口棺に弥生文化の影響を考えた (小林ほか 1938)。

本稿では棺形態分類でも述べたとおり、土器棺の「棺」としての容量を重視し、単棺あるいは単蓋棺と比較して、(接口) 合口棺の容量は 2 倍 (合蓋棺および外蓋・内蓋合口棺の場合は 1.5 倍) と単純に考えると、より大きい内容物を納めるためのもの、つまり棺内容積の拡大を意図したものとした。

内容物については再葬の可能性もあり予断を許さないが、今回の再検討により、棺内容積の増加を棺内容物の増大、つまり胎児・新生児から乳児までの年齢層拡大の結果と捉えるならば、合口棺の出現は葬制という社会組織編入の仕組みが変化したためと考えられる。但し合口棺が分布する地域だけに限定されるが。

謝辞

恩師亡きあと四半世紀、矢野先生にはずっとお世話になりました。そのご恩恵には及びませんが、感謝の気持ちとともに拙文を書かせていただきました。今後ともご指導のほど宜しくお願い致します。

参考文献

- 小林行雄・藤岡謙二郎・中村春壽 1938 「近江坂田郡春照村杉沢遺蹟－縄文式土器合口甕棺発掘報告－」『考古学』第 9 巻第 5 号 pp.221-235
- 坂詰秀一 1958 「縄文文化における甕棺葬の基礎的研究」『立正大学文学部論叢』9 pp.88-109
- 葛原秀雄 1987 「北仰西海道遺跡の調査」『今津町文化財調査報告書』第 7 集、今津町教育委員会 pp.85-87
- 山本直人 1987 「石川県の土器棺」『福岡遺跡』河内村教育委員会 pp.1-88
- 中村健二 1991 「近畿地方における縄文晩期の墓制について」『古代文化』43-1、古代学協会 pp.17-31
- 中村健二 1993a 「県境の遺跡」『滋賀文化財だより』184、財団法人滋賀県文化財保護協会 pp.1-4
- 中村健二 1993b 「土器棺墓よりみた近畿地方晩期後半の地域色について」『滋賀考古』第 10 号、滋賀考古学研究会 pp.9-28
- 前田清彦 1993 「土器棺墓からみた伊勢湾周辺の墓制」『突帯文土器から条痕文土器へ－伊勢湾周辺地域における縄文文化の解体と弥生時代の始まり－』第 1 回東海考古フォーラム豊橋大会資料集 pp.122-143
- 坂本嘉弘 1994a 「埋甕から甕棺へ－九州縄文埋甕

考一」『古文化談叢』第32集、古文化研究会 pp.1-28

中村健二 1994「坂本嘉弘「埋甕から甕棺へ—九州縄文埋甕考一」を読んで」『古文化談叢』第33集、古文化研究会 pp.247-249

坂本嘉弘 1994b「拙稿「埋甕から甕棺へ—九州縄文埋甕考一」に対する中村氏のコメントに答えて」『古文化談叢』第33集、古文化研究会 pp.250-255

山田康弘 1995「九州の埋設土器」『熊本大学文学部論叢』第49号 pp.84-104

家根祥多 1996「縄文土器の終焉」『縄文土器出現』歴史発掘2、講談社 pp.134-154

関西縄文文化研究会 2000『関西の縄文墓地』第2回関西縄文文化研究会発表要旨・資料集 pp.1-112

立岡和人 2000「近畿地方における縄文晩期土器棺の成立と展開」『関西の縄文墓地』第2回関西縄文文化研究会発表要旨・資料集 pp.83-96

前田清彦 2000「埋葬人骨からみた伊勢湾東岸地域の晩期墓制」『関西の縄文墓地』第2回関西縄文文化研究会発表要旨・資料集 pp.103-112

山田康弘 2001「中国地方の土器埋設遺構」『島根考古学会誌』第18号、島根考古学会 pp.53-80

中沢道彦 2007「関西出土所謂東日本系土器の再検討」『関西の突帯土器』第8回関西縄文文化研究会発表要旨・資料集 pp.113-125

報告書

滋賀県 1. ①今津町教委 1985・1986・1987『今津町文化財調査報告書』第4・5・7集 / ②同 1989『今津町内遺跡調査概要報告書』 5. 滋賀県教委 1993『堀部西・丸岡塚・春近遺跡』 6. ①小林行雄ほか 1938『考古学』第9巻第5号 / ②伊吹町教委 1996『杉沢遺跡甕棺墓の調査・谷海道遺跡』 / ③立命館大学文学部 2015『滋賀県米原市杉沢遺跡発掘調査報告—2011・2012年度の調査—』 8. 中井均 1991『滋賀文化財だより』183 10. 滋賀県教委 2013『六反田遺跡Ⅱ』 12. 多賀町教委 2004『土田遺跡—第4次調査・第5次調査—』 15. 滋賀県教委 2000『金屋遺跡』 18. 五個荘町教委 1985『木流遺跡・平坂遺跡』 30. 滋賀県教委 2011『七条浦遺跡・志那湖底遺跡』京都府 2. (財)京都市埋蔵文化財研究所 1989『京都市埋蔵文化財調査概要—昭和61年度—』 6. ①(財)京都市埋蔵文化財研究所

1983『京都市埋蔵文化財調査概要—昭和57年度—』 / ②同 1996『京都市埋蔵文化財調査概要—平成6年度—』奈良県 6. 奈良県立橿原考古学研究所附属博物館 1988『大和を掘る』1987年度発掘調査速報展Ⅷ三重県 1. 名張市教委 2000『下川原遺跡第3次調査概要』 2. 三重県埋蔵文化財センター2002『権現坂遺跡発掘調査報告』 4. 東員町教委 1991『山田遺跡発掘調査報告—縄文時代編—』 5. 三重県埋蔵文化財センター2008『志知南浦遺跡発掘調査報告』 11. 鈴鹿市 1980『鈴鹿市史』第1巻 15. 一志町教委 1991『高寺遺跡発掘調査報告』 18. 三重県教委 1982『昭和56年度県営圃場整備事業地域埋蔵文化財発掘調査報告』 19. 三重県埋蔵文化財センター1991『近畿自動車道(久居～勢和)埋蔵文化財発掘調査報告—第3分冊7—』 23. 三重県埋蔵文化財センター2008『大原堀遺跡発掘調査報告—第2・3次調査—』岐阜県 11. 各務原市教委 1973『炉畑遺跡発掘調査報告書』 16. (財)岐阜県文化財保護センター1998『上原遺跡Ⅰ』 17. (財)岐阜県文化財保護センター1994『戸入村平遺跡』 18. 岐阜県教委 1989『はいづめ遺跡』 22. (財)岐阜県文化財保護センター2018『六里遺跡・稻荷遺跡』 23. 南濃町教委 2000『羽沢貝塚発掘調査報告書』愛知県 7A. (財)愛知県埋蔵文化財センター1991『麻生田大橋遺跡』 7B. 豊川市教委 1993『麻生田大橋遺跡発掘調査報告書』 14. 杉原莊介・外山和夫 1964『豊川流域における縄文時代晩期の遺跡』『考古学集刊』第2巻第3号 25. 足助町教委 1979『今朝平遺跡概報』 38. 新編岡崎市史編さん委員会 1987『新編岡崎市史』史料考古(上) 49. ①澄田正一・大参義一・岩野見司 1970『新編一宮市史』資料編—縄文時代 / ②一宮市教委 1975『馬見塚遺跡範囲確認調査報告』 53. ①守山市教委 1961『牛牧遺跡』 / ②(財)愛知県埋蔵文化財センター2001『牛牧遺跡』静岡県 2. (財)静岡県埋蔵文化財調査研究所 1988『原川遺跡Ⅰ』 4. 浜松市教委 1990『都田地区発掘調査報告書』下巻5 7. 同上福井県 1. 福井県教育庁埋蔵文化財調査センター2000『柴山崎遺跡Ⅱ』 5. 永平寺町教委 1994『金剛丸・成仏・木原町遺跡』石川県 3. 野々市町教委 1983・1989・2003・2009『野々市町御経塚遺跡・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ』 7. 石川県教委 1975『御所の館縄文遺跡』富山県 1. (公財)富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所 2012『早月上野遺跡発掘調査報告』新潟県 1. 新発田市教委 1982『村尻遺跡Ⅰ』